

東北の美しい桜をシンボルにした官民広域連携の東北復興支援プロジェクト

東北・夢の桜街道運動によるソーシャル・イノベーション

東北・夢の桜街道推進協議会事務局長 宮坂 不二生
(中央大学政策文化総合研究所客員研究員)

【要約】

東日本大震災により未曾有の災害を被った東北の復興を支援するため、“新しい公共”の地域づくり団体「美しい多摩川フォーラム」が、姉妹団体「美しい山形・最上川フォーラム」と共に、発展的に組織した官民広域連携・協働推進の「東北・夢の桜街道推進協議会」は、“桜”というコモンズ(共有財産)を活用した観光振興戦略による東北復興支援プロジェクトを展開している。日本の原風景が数多く残る東北の象徴として、東北に広く点在する“桜”をシンボルに、「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所巡り」運動を提唱し、「交流人口増加」の観点から東北の地域経済の面的再生を支援するものであり、また、支援する側と支援される側の双方向の相互扶助による地域復興運動でもある。コモンズを象徴的に組み込んだ本観光振興モデルは、地域経済活性化を模索する全国の地域づくり運動に対し、ソーシャル・イノベーション・モデルとして、持続可能な地域づくりのスキームを提供するほか、有効なインバウンド対策として日本の成長戦略にも寄与する。

(キーワード) 東北復興支援、東北・夢の桜街道、官民広域連携、交流人口増加、相互扶助、ソーシャル・イノベーション、持続可能、インバウンド

1. 「東北・夢の桜街道運動」の発足経緯

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方は未曾有の事態に陥り、時間の経過とともに深刻な風評被害も発生した。東北の復興支援は喫緊の国民的課題となった。こうした状況下、地域の活性化と自立を標榜する官民広域連携の地域づくり団体「美しい多摩川フォーラム」では、姉妹関係にあった“新しい公共”の全県的な地域づくり団体「美しい山形・最上川フォーラム」に呼びかけ、自らが提唱する「人口減少時代の官民広域連携・協働推進による持続可能な地域づくり運動」のスキームが、東北の復興再生に少なからず役立つと考え、観光振興を通じた東北復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所巡り」を立案し、平成23年10月1日に対外公表した。同年12月1日には、両フォーラムを母体に官民広域連携の「東北・夢の桜街道推進協議会」(構成員:東北6県、東京都、JR東日本、全日空、はとバス、JT、全信協、東北地区信金協、東信協、両フォーラムの16団体)を発展的に設立し、“新しい公共”の視点による東北復興支援プロジェクト『東北・夢の桜街道運動』を以後10年間実施する旨決定した。なお、平成24年3月末に、特別委員として国土交通省東北地方整備局、同省東北運輸局、東北観光推進機構が協議会に加わり、さらに同年7月には、日本航空、クラブツーリズム、近畿日本ツーリストが構成員として参加した。

2. 「東北・夢の桜街道運動」の仕組みと概要

「東北・夢の桜街道運動」は、日本で最も愛され、かつ東北に広く点在する美しい“桜”を東北復興のシンボルに掲げ、「桜の札所・八十八カ所」として新たに選定した東北6県の桜の名所を、東北復興への祈りを捧げながら巡るといった観光振興スキームである。これを民間主導の官民広域連携・協働推進によるオール・ジャパンの国民運動として盛り上げ、「交流人口増加」という形で地域経済を活性化させる、独創的かつ発展的な仕組みとなっている。



そこで、平成25年春シーズンを具体的にみると、支援する側では、「東北・夢の桜街道」をPRするため、①東北復興支援シンポジウム(1月、感動的な海外短編ドキュメンタリー映画「津波そして桜」も上映)、②東北観光物産展&東北・夢の桜街道パネル展(2月)、③東北・夢の桜街道の“桜の札所”の看板&記念スタンプ設置とスタンプラリー事業(4月～5月中)、④桜の札所における“桜の語り会”(語り部・平野啓子氏、宮城県の鹽竈神社、4月)等を開催したほか、⑤公共交通機関・旅行会社が統一ロゴマークを用いて「桜の札所巡りの旅行商品」を造成し、観光客の誘客に努めた。さらに、⑥全国211の信用金庫が「東北・夢の桜街道」のポスターを1月初から4月末まで

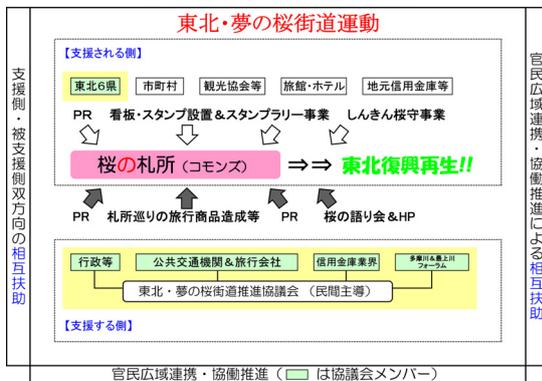
「東北・夢の桜街道運動」による東北復興支援事業の全体像



の間、全店舗(6,382店)に掲示し、信金のネットワークの力で「東北・夢の桜街道」をPRした。

一方、支援される側でも、①東北各県の旅館ホテル組合、女将会が、桜の札所のスタンプラリー賞品(無料宿泊券)を提供したほか、②東北地区の各信用金庫が市町村、観光協会、学校等と連携し、地元の小中学生を対象に絵画コンクール等を行い、「郷土愛を育む」「しんきん桜守制度」を展開しており、支援する側と支援される側の双方向の相互扶助による地域復興・再生運動を実施している。さらに、当協議会事務局でも、東北・夢の桜街道の「公式ガイドブック」や「桜の札所マップ」を発刊したほか、「公式ホームページ」を開設して桜の札所を詳しく紹介し、「東北・夢の桜街道」のPRに努めている。

ソーシャル・イノベーションの構図



3. 「東北・夢の桜街道運動」の社会的意義

「東北・夢の桜街道運動」は、官民広域連携による相互扶助の地域づくり運動として極めて有意義な取り組みである。すなわち、①東北(全国)の至るところに点在する commons としての“桜”に着目し、「桜の札所」の概念で地域を捉えることで、東北6県の行政の厳格な境域を飛び越え、当該地域の各主体が緩やかに広域連携・協働する面的な地域づくり運動としてモデル化した点は独創的である。特に、桜の札所が所在するすべての行政(県・市町村等)が何らか

の形で参加している点は見逃せない。また、②協議会の事務局を「非営利・相互扶助」を基本理念とする協同組織金融機関であり、地域金融機関でもある信用金庫が担うことにより、運動の公益性を担保できるほか、全国に所在する信用金庫など地域金融機関が関わる地域づくり運動にも応用が可能である。因みに、公民連携・協働推進による地域づくり運動の源流は、幕末の実践的な農政家・二宮尊徳による共同体的な「報徳仕法(疲弊した農村の復興策)」で、明治時代に至り、「非営利・相互扶助」の精神に裏付けられた今日の信用金庫の母体として結実した。今回、信用金庫が多数参加した精神的なバックグラウンドになっている。さらに、③緩やかな連携のもと、業種を代表する企業が多数参加することにより、支援体制の裾野が広がっており、国民運動規模による革新的な地域再生モデルとなっている意義は大きい。今後、日本の地方都市を再構築していくための戦略的かつ普遍的モデルとして位置付けられよう。

4. 「東北・夢の桜街道運動」の今後の展望

東日本大震災の被害が未曾有の規模であったにもかかわらず、早くも「記憶の風化」が始まっている。「東北・夢の桜街道運動」をオール・ジャパンで取り組み、震災後10年間、交流人口の増加を目指して、着実に推進することにより、東北復興への貢献を確実なものとしていきたい。東北の桜は、それ自体が名木であるだけでなく、日本の原風景が数多く残されている東北の象徴として、今後、観光事業の大きな柱に成長する可能性を秘めている。それだけに、新規の観光需要が見込まれるインバウンド対策(海外誘客)として有効な「東北・夢の桜街道」のインバウンド商品を早期造成するとともに、ジャパン・ブランド化し、日本の成長戦略にも寄与したいと考えている。世界から見れば、東北の復興は、日本復活の象徴でもある。「東北・夢の桜街道運動」は“新しい公共”の運動として持続的成長が大いに期待されている。